

南米初の国立公園はなぜウルグアイで？

～フランクリン・デラノ・ルーズベルト国立公園成立の背景～

親泊 素子

江戸川大学国立公園研究所客員教授

はじめに

中南米諸国と聞くと、多くの日本人は広大な面積を持つメキシコ、ブラジル、アルゼンチンの国々をまず思い浮かべるだろう。又、風景といえば、世界遺産として有名なマチュピチュやイグアスの滝等を訪れる日本人観光客は多い。しかし、ウルグアイと聞くと場所も名前もあまりなじみがなく、経済の分野でウルグアイラウンドという言葉聞く位である。最近では、世界一貧しい大統領として日本のマスコミにウルグアイのホセ・ムビカ大統領が話題となった。だが、中南米諸国において最初に国立公園を設立した国がウルグアイであることを知っている人はほとんどいない。ついでに言えば、アルゼンチンタンゴとして有名なラ・タンパルシータもウルグアイのヘラルド・マトス・ロドリゲスが大学時代に作曲したものであるが、アルゼンチンタンゴやコンチネンタルタンゴの代表曲として知られ、ウルグアイ発祥の曲であることはあまり知られていない。さらにウルグアイは20世紀前半、サッカー屈指の強豪国として知られていた。このようなユニークな国で国立公園が周辺の大国に先駆けて国立公園をいち早く取り入れたことは興味深い。ウルグアイに続いて国立公園を設立した国はメキシコで、1917年に国立公園を設立している。続いて、チリ、ガイアナ共和国、アルゼンチン、ベネズエラ、ブラジルで国立公園が作られたが、すべてこれらの国立公園は1930年代に入ってからである。そこで本論ではこの小さな国がなぜ中南米で初めて国立公園を設立するに至ったのか、その背景について調査研究を行った。

I ウルグアイの国について

1. 国の概要

ウルグアイは南米の南東部に位置する共和制国家で、正式名称は「ウルグアイ東方共和国(Oriental Republic of Uruguay)」である。国土面積は17.6万平方キロメートルで日本の約半分の面積である。2021

年の人口は約349万人、首都のモンテビデオには約175万人の人々が暮らしている。ヨーロッパ人が入ってくる以前は原始的な狩猟や農耕をする先住民がいたが、現在は欧州系が90%を占め、残りの8%が欧州系と先住民との混血である、アフリカ系住民も約2%いる。長い間スペインの植民地だったため、公用語はスペイン語である¹⁾。

ウルグアイに「東方共和国」とタイトルがついているのは、ウルグアイがアルゼンチンとの国境を形成するウルグアイ川の東方に位置することからそのように呼ばれている。ウルグアイの国名はラ・プラタ川支流のウルグアイ川にちなんでつけられ、「ウルグアイ」の語源は先住民のグアラニ語で「鳥の住む川」の意味である²⁾。また、ウルグアイは北東部をブラジルの国境と接しており、アルゼンチンとブラジルの大国に挟まれている小さな国といえよう。南は大西洋に面しており、南緯30度から35度に位置し、ウルグアイから東に1,000キロ離れた大西洋上が丁度東京の反対側にあたる形となる³⁾。肥沃な牧草地帯を持っているため、農牧林業を主要産業としているが、鉱物資源には乏しく、そのため17世紀頃は積極的な欧米諸国による植民活動はなかった⁴⁾。

2. ウルグアイ成立の歴史

南米に初めて接触をしたヨーロッパ人はコロンブスで、1499年から1500年にかけて5つのスペイン探検隊が渡来したといわれる。それ以前は、南米大陸の先住民たちが独自の文化をつくりあげていた。ウルグアイの土地もチャルーア、チャナ、グアラニ等の先住民が狩猟や原始的な農耕を営みながら生活をしてきた。やがて、1516年にスペインの航海者だったファン・ディアス・デ・ソリスがラ・プラタ河口まで航海し、この地域をスペイン領として宣言した。1520年にはフェルディナンド・マゼランが太平洋へとつながる海峡を発見し、多くの探検家たちは「銀の国」を求めてラ・プラタ川とその支流を上っていった。プラタは「銀」という意味で女性定冠詞のラをつけ、その川

をラ・プラタ川と名付けた。しかし、目立つ鉱山資源も見つからず、また、強力なチャルーア人によって支配されていたため、この地のヨーロッパ人による殖民や開発は遅れた⁵⁾。

やがて、このラ・プラタ地域が牧畜に適していることに気付いたラ・プラタ・パラグアイの総督が牛を放牧すると、野生の牛、馬、羊等が増え、この地は「天然の大牧場」となり、野生の牛の皮を売りさばくようになった。一方、内陸部へと進出してきたサンパウロのポルトガル人達が1680年にこの地にコロニア・ド・サクラメントを建設し牧畜資源を手に入れると、ブエノスアイレスのスペイン人が兵を送ってコロニアを占拠し、1726年にモンテビデオを建設した。こうして、この地でスペインとポルトガルの争いが繰り返されるようになったが、最終的にはスペインの植民地となり、この地は「ウルグアイ川東岸地帯(バンダ・オリエンタル・デ・ウルグアイ“Banda Oriental del Uruguay”）」と呼ばれるようになった⁶⁾。

やがて、この両国で国境線を定める二つの条約が締結され、バンダ・オリエンタルのコロニアはスペイン領として認められ、先住民のグアラニ族を集めていた7つのイエズス会ミッションがあったウルグアイ川とイブクイ川に挟まれた地域はポルトガル領とされた。さらに、ラ・プラタ地域は1776年には本国スペインのカルロス3世による植民地活性化のためのボルボン改革により直接の管理下に置かれ、ラ・プラタ副王領が創設され、モンテビデオはブエノスアイレスに続く第二の港として発展した⁷⁾。

1789年にフランス革命が勃発すると、本国スペインとフランスは同盟を組み、その同盟と戦うことになったイギリスは1806年にラ・プラタ地方の権益に手をつけようとブエノスアイレスに侵攻し、一時はモンテビデオも占領したが、翌年の1807年にブエノスアイレスの戦いに敗れ撤退した。しかし1808年にナポレオン・ボナパルトがジュノ将軍率いる10万人の大軍をスペインに送り込み、スペイン国王のフェルナンド7世を追放して、ナポレオンの兄、ジョセフ・ボナパルトをスペイン王ホセ1世として即位させると、それに対して住民の反対運動がおこり、スペイン王党派の自治政府による独立運動が起った。この動乱はスペインのアメリカ植民地にも伝わり、最初に動いたのがモンテビデオであった⁸⁾。

本土での政変が起ると独立の機運を高めるブエノス

アイレスと、本国スペインへの忠誠を誓うモンテビデオとの間で溝が生まれた。1810年にブエノスアイレスで五月革命が勃発し、クリオージョ⁹⁾の革命派勢力が政権を握ると、モンテビデオは王党派を支持する反革命派の砦となった。するとバンダ・オリエンタル周辺の中地主たちが、カウディージョ¹⁰⁾のホセ・アルティガスをリーダーとして兵を集め、ブエノスアイレスからの援軍とともにモンテビデオを攻めて包囲した。しかし、モンテビデオの王党派がポルトガルからの援軍を得ると、ブエノスアイレスの革命政府は弱気となり、アルティガスを無視してモンテビデオの王党派と休戦協定を結んでしまった。失望したアルティガスは1万5千人ともいわれる兵と共にウルグアイ川対岸に移動した。この結果、ブエノスアイレス革命政府とバンダ・オリエンタルの革命勢力は反目しあう仲になっていった¹¹⁾。

1813年1月ブエノスアイレス革命政府は憲法制定会議を開催しようと旧ラ・プラタ副王領の各地方の代表者を集めた。この時、バンダ・オリエンタル代表は、「連邦制」を取り決める意見の入った「13年教書」を持参したが中央集権制を主張するブエノスアイレス革命政府に拒否されてしまった。翌年、ブエノスアイレス革命派は武力でモンテビデオの王党派を降伏させたが、その時、アルティガスはその戦いに加わらず、1815年にモンテビデオのブエノスアイレス革命政府を攻め込みついに自治政府を誕生させた。しかし、この時はまだ、ウルグアイの独立を目指したのではなく、連邦国家を樹立し、その一部となることであった。1816年7月9日にリオ・デ・ラ・プラタ連合州が宣言され、アルゼンチンが独立した。しかし、独立後に国内で中央集権派と連邦主義派との間でアルゼンチンの国づくりを巡る対立がおこり、カウディージョと呼ばれる軍事的指導者が連邦制の擁護者となり、アルゼンチンは内乱状態になっていった¹²⁾。

また、同年にポルトガル人がブラジルからバンダ・オリエンタルに侵攻してきた時、ブエノスアイレス政府は反政府のいるこの地域をポルトガルに取られてもいいという考えもあり、アルティガスに援軍を送らず、孤立したアルティガスは敗れパラグアイに亡命した。1821年にバンダ・オリエンタルは「シスプラティーナ」(「ラ・プラタ川のこちら側」の意味)と名付けられ、ポルトガルに併合された¹³⁾。

3. ウルグアイの独立

一方、ヨーロッパ本国のポルトガルは実質イギリスの支配下にあり、1820年に自由主義革命がおこると、ブラジルは再度植民地に格下げされることをおそれ、クリオージョ達が1822年10月に「ブラジル帝国」の独立を宣言した¹⁴⁾。

1825年にアルティガスの副官だったファン・アントニオ・ラバシェハ将軍が33人の兵を引き連れバンダ・オリエンタルに戻ってきて、再びブラジルからの独立とラ・プラタ連合州への帰属を求めて戦争を開始した。ラ・プラタ連合州はこの戦争でラバシェハ将軍を支援し、同年10月にブエノスアイレス政府がバンダ・オリエンタルのラ・プラタ連合州への編入を承認すると、ブラジルが宣戦を布告し、両国による戦いが再び始まった¹⁵⁾。

しかし、独立して間もない両国にとって、この戦争は負担が大きすぎ、ついに、1828年8月27日にイギリスの仲介により、ブラジルとアルゼンチンの間でモンテビデオ条約が結ばれ、バンダ・オリエンタルは「ウルグアイ東方共和国」として独立を果たした。長年の戦争の結果、独立時の人口はたった74,000人しか残っていなかった。この独立後の初代大統領に選出されたのがフルクトウオソ・リベラだった。又、リベラの甥は北部にわずかに生き残っていたチャルーア人を襲撃し、民族集団としてのチャルーアを絶滅させてしまった。こうして独立を果たしたウルグアイではあったが、当初は連邦制アルゼンチンの一州を目指していたために、いざ独立してみても国の経済、インフラ整備、国家建設を推し進める人材も不足し、前途多難なスタートを切った。そういう状況下でウルグアイ初代大統領となったフルクトウオソ・リベラは政治的安定をもたらすことができなかった¹⁶⁾。

1835年にマヌエル・オリベが第2代大統領に選出されると、彼は独立後の混乱した社会の秩序を回復するためにかなりの強権的な施策を実施した。1836年リベラが反オリベの人々を結集させ謀反を企てた。その内乱でオリベは白い記章を国軍につけさせ、リベラは赤い記章を軍につけさせた。すなわち、白を意味するブランコ党と赤を意味するコロラド党のはじまりである。オリベはアルゼンチンで権力を持っていた連邦派のカウディージョ、ファン・マヌエル・デ・ロサスに支援を頼んだが、フランスがリベラ支援にまわったため、1838年にオリベは引退に追い込まれた。これが

ウルグアイ大戦争の始まりだった。リベラが再び大統領の地位に着くと、ロサスに宣戦布告を行い、1839年に今度はロサスの意を汲んだアルゼンチン・エントレリオス州軍がウルグアイに侵攻してきた。リベラはこの軍を撃退したが、翌年の1840年にフランスとロサスが和睦すると、今度はオリベ・ロサス軍が盛り返しをみせ、1842年にリベラ軍に勝利した。このリベラとオリベの戦いは実質的な権力をもっていたリベラと独立国家として法的な権力を確立しようとしていたオリベとの戦いだった。やがてフランスやイギリスがそれぞれの利害関係から身を引き、アルゼンチン、ブラジル両国の政策転換により、ウルグアイへの内政干渉が和らぎ、ようやく大戦争が終結した¹⁷⁾。

II ホセ・バッジェ・イ・オールドーニェス (José Batlle y Ordóñez) と国立公園

南米初の国立公園は、第19代及び21代大統領となったホセ・バッジェ・イ・オールドーニェスの政権二期目の1915年に設立された。そこで、この時代にかに国立公園が設立されたのかを知るために、バッジェの生い立ちやそのキャリアについて追ってみた。

1. 生い立ち

ホセ・バッジェ・イ・オールドーニェス(以降バッジェに省略)はコロラド党の軍人で大統領(在任1868-72)にもなった政治家、ロレンソ・バッジェとアマリア・オールドーニェスの長男として1856年5月23日にモンテビデオで生まれた。祖父はスペイン、カタルーニャ州バルセロナ県のシッチェス(Sitjes)という町から船でモンテビデオにやってきて、そこに製粉所を作り、モンテビデオのスペイン海軍に卸していた。バッジェの祖父はスペイン王国に忠実な人で、ラ・プラタ川(Rio de la Plata)へ英国軍が侵攻してきた時にも、また、ホセ・アルティガスがスペインから独立しようとした二度の戦いの際にも常にスペインに対して忠誠を誓っていた。そのため、バッジェの祖父はブエノスアイレス革命政府がモンテビデオの王党派を降伏させた1814年にはスペインへ戻り、残りの家族も1818年にスペインへ戻った。しかし、1823年に祖母が亡くなると祖父はモンテビデオに戻り、1833年に再び製粉所を開いた。バッジェの父のロレンソは1810年にウルグアイで生まれ、その後スペインへ戻り、フランスとスペインで教育を得た後、1830年にウルグアイに戻ってきた。バッジェの父はすぐにコロラド党内で頭角を現し、ウルグアイの内戦に巻き込まれ、1847年にフルクトウオソ・リベラのブラジル逃

亡の手助けをした。それから間もなく、他のコロラド党の仲間の娘と結婚した¹⁸⁾。

このようにバッジェの家族はコロラド党内では非常に注目を浴びた家族であり、バッジェの親せきのうち5人が大統領になっている。バッジェの父、ロレンソはモンテビデオ包囲戦の時に戦争大臣となり、バッジェが12歳の1868年にウルグアイの大統領に選出された。また、バッジェの子供、シーザー(César)、ラファエル(Rafaerl)、ロレンツォ(Lorenzo)達も政治家や著名なジャーナリストとなった。さらに、バッジェは、後の大統領となったルイス・バッジェ・ベレス(Luis Batlle Berres)の叔父にあたり、ジョルジ・バッジェ(Jorge Luis Batlle Ibáñez)大統領の大叔父にもあたり、彼の義理の叔父のダンカン・スチュアート(Duncan Stewart)は1894年に3週間だけ代理の大統領も務めた¹⁹⁾。

バッジェはモンテビデオで英語教育を受けた後、共和国大学(*Universidad de la República*)で学んだ。大学では“理想主義者(Idealists)”と“実証主義者(positivists)”についてよく議論した。ジャーナリストでもあったプルデンシオ・バスケス・イー・ベガ(Prudencio Vázquez y Vega)の指導を受け、バッジェは理想派の主要メンバーとなっていった。また、バッジェの政治信条はドイツの哲学者及び法学者だったハインリッヒ・アーレン(Heinrich Ahrens)の影響も受けており、これはベガによって紹介されたものである。1880年、バッジェが24歳の時に彼は父親を説得して1年間パリに留学した。そこで彼は英語の授業をとりながら哲学の授業を受けていた²⁰⁾。

帰国後、バッジェはジャーナリストとなり、1886年に『エル・ディア』(*El Día*)新聞を創設した。バッジェはこの新聞を政策議論の場として活用し、ライバルを批判し、新たな政策提案をするなどしていた。やがて、バッジェは下院議員を経て、1899年から1903年迄、ウルグアイ上院議長を務めた。そして1903年に第一期の大統領としてコロラド党から選出されたが、ブランコ党のパリシオ・サラビアが1903年、1904年と二度にわたって反乱を起こし、特に2度目の反乱はかなり長期化したため苦戦を強いられた。ようやく、リーダーのサラビアの戦死で、反乱軍との講和に持ち込むことができた。こうして第一次バッジェ政権では、このサラビアの反乱を抑えることと財政の健全化に時間を費やしてしまった。しかし、その後は改革を進め、小国だったウルグアイを「南米のスイス」と称されるほど

の進歩的な福祉国家へと変貌させていった²¹⁾。

2. バッジェの政治実績

ウルグアイの憲法では、大統領の連続再選が禁じられていたため、一期目を終えたバッジェは1907年から1911年にかけてパリを拠点にヨーロッパの他の国々を訪ね、多くのことを吸収した。1911年に始まった第二次バッジェ政権ではヨーロッパでの経験を生かし、政治、社会、経済、宗教・文化の分野で斬新な政策を次々と打ち出した。政治の分野では大統領の権限を制限した複数行政制の導入、社会の分野では年金法制定の他にも離婚法や8時間労働法の導入、経済の分野では、電気、郵便事業を国有化し、銀行や保険業を国家の管理下におき、イギリス系の鉄道に対して国家による規制を強めた。また、バッジェは国家とカトリック教会の政教分離を図り、死刑の廃止、闘牛などの動物の命を危険にさらす見世物の禁止といった「人道的」な政策も押し進めた。また中等教育の拡充と無償化、スポーツの振興等、市民の健康・福祉向上にも努力した²²⁾。

Ⅲ ウルグアイの国立公園誕生

1. フランクリン・D・ルーズベルト

(Franklin Delano Roosevelt) 国立公園の誕生

ウルグアイ初のフランクリン・デラノ・ルーズベルト国立公園は1915年に誕生した。1993年のUN(国連)リストに掲載された当時の公園面積は1,500ヘクタールで、IUCN(国際自然保護連合)の保護地域カテゴリーはIIの分類の国立公園ではなく、Vの景観保護地域に分類されており、人の手が加わった自然景観地域となっている²³⁾。この国立公園は首都モンテビデオにあり、北西部のカラスコ国際空港もこの公園の近くにある。設立当時の名称はカラスコ(Carrasco)やセンタニエル(Centennial)国立公園として知られていたが、アメリカの第32代大統領、フランクリン・D・ルーズベルト(Franklin D. Roosevelt)に敬意を表し、1945年に現在の名称に変更された。この公園は南東部をランブラ・コスタネラ通り、南西部はア・ラ・プラヤ通り、そして北東部にかけてラシネ通りに囲まれており、現在はカネロネス県の管轄となっている。この公園は、人々のレクリエーション、教育、学術研究の場として利用すべき目的でつくられ、国が所管するという一方で、「国立公園」という名称がつけられたという²⁴⁾。

この国立公園は、もともとはアルフレド・ガルシ

ア・ラゴス(Alfredo García Lagos)氏の私有地だった1,142ヘクタールの湿地と350ヘクタールの土地をラゴス氏が条件付きで政府に寄贈したのである。この湿地帯にはたくさんの蚊が発生し、衛生上の問題を抱えていた。そこで、その部分を埋め立て、土地も植栽をすることで、公共の公園として計画されることを条件として寄贈されたのである。そこで、フランス人造園家のカルロス・ラシーン(Carlos Racine)に国が大規模な公園設計とその建設を委託した。翌年の1916年に再整備を委託されたラシーンは、おおがかりな植栽を行ったが、その多くはユーカリ、マツ、アカシアの種類等で、在来種、外来種等関係なく植栽された。50万本以上のユーカリの他、24種以上の樹木が植栽され、合計でも70万本以上の木が植栽されたといわれている²⁵⁾。

その後、都市の発展とともに、ルーズベルト国立公園は首都圏の公園として親しまれるようになった。現在の公園の周辺は宅地開発やビジネス地区の開発で、もともとあった1,500ヘクタールの公園が減少しているのが現状である。カラスコ国際空港への道路建設、教育センターの付設、スポーツや乗馬用の馬場の整備、子供の遊び場、その他のスポーツ用コートの整備等、かなりの開発が進んだ。さらに、不法住民による占拠、違法な木材の伐採、ごみの不法投棄等が問題化してきた。現在ではルーズベルト公園として残されているのは、わずか330ヘクタールの土地と未開発の保留地だけとなってしまった。1996年にレクリエーション地域として公園改善プロジェクトが行われ、2008年には再活性化のプロジェクトも承認された。公園の東端に位置する約30ヘクタールの土地を委託された非営利団体、フォーラム・ウルグアイ(Forum Uruguay)はそこにスポーツ、文化、レクリエーション施設等を整備し、「フランクリン・デラノ・ルーズベルト メトロポリタン子どもの権利公園」(the Franklin Delano Roosevelt Metropolitan Children's Rights Park)として生まれ変わらせた。したがって、その区域はルーズベルトの名前を維持しつつ、「子供の権利公園」と命名され、益々その利用を高めている²⁶⁾。現在、このルーズベルト国立公園は2022年のIUCNの保護地域リストからは完全に外されたが、国内では依然としてウルグアイ最初の国立公園として認知されており、その面積や整備内容から都市型の自然公園もしくは、イギリスのカントリーパークに似た公園として利用されている。公園内はたくさんのユーカリの木に覆われた自然保護区の他に、ジョギング用のトレイルや犬の散歩に適した遊歩道、乗馬用の馬場やバイク利用ができ

る広場、そして遊具等が設置された子供の遊び場等も整備され、市民や観光客の憩いの場となっている²⁷⁾。

2. 成立の理由

それでは、ウルグアイでこの時代になぜ国立公園が設立されたのだろうか。その大きな理由はウルグアイの急激な社会、経済、政治変化である。特に大きな社会変化として挙げられるのが首都モンテビデオへのヨーロッパ移民による人口集中、そしてそれに伴う都市環境の悪化、その改善を迫られた政府による新たな都市計画とその整備、そしてそのためにヨーロッパの建築家や造園家がウルグアイに入ってきたことである。その結果、ウルグアイの新たな街づくりが始まり、同時に社会の西欧化も急速に進んだ²⁸⁾。

1828年の独立後、幾多の争いを経て、国づくりが始まると、徐々にウルグアイはヨーロッパからの移民と資本を基本として近代化を推し進めた。特に首都モンテビデオへの人口流入にともなう都市整備が求められた。1860年の国勢調査によるとウルグアイの全人口に占める外国人の比率は34.8%だったが、その多くはブラジルからの移民だった。しかし、1908年の国勢調査では、全人口の17.4%が外国人で、そのうちの三分の二がイタリア人とスペイン人であった。さらに、その大半が首都モンテビデオに居住するようになり、モンテビデオ市のヨーロッパからの外国人の比率は30.4%にも達していた。こうした都市への人口集中による生活環境の悪化は人々の衛生面や精神面へも大きく影響した²⁹⁾。

これらの移民と同時に、ヨーロッパのブルジュア文化も入ってきて、現地のクリオージョ達にとってヨーロッパ文化は羨望と尊敬の的となり、裕福な家庭の師弟はパリに留学し、ヨーロッパのあらゆる流行が直輸入されるようになった³⁰⁾。現に、大統領となったバッジェは1880年から1年間パリに留学しており、さらに第一次政権が終わるとしばらくパリを拠点としてヨーロッパに滞在していた。その時期は「パリ改造」³¹⁾と呼ばれる斬新な都市計画がパリで実施され、都市のイメージを大きく変えていった。それを現場で観察したバッジェの心の中には、すでにモンテビデオの新しい都市の青写真が描かれていたに違いない。

1890年から91年にかけてフランスを代表する園芸家、エドゥアール・アンドレがモンテビデオの都市計画に携わり、モンテビデオの街の公園、広場、大通り

等、パリの大都市計画をモデルとした都市づくりが始められた。エドゥアール・アンドレはこの時期、すでにフランスを代表する園芸家及び庭園デザイナーとしてヨーロッパ中にその名を轟かせていたが、プラントハンターとして南アメリカへ渡り、多くの植物も発見していた。その後、彼はアルゼンチンやウルグアイの大規模な都市計画にも関わるようになった³²⁾。したがって、20世紀初頭のバッジェ政権が発足する前からモンテビデオの都市づくりはヨーロッパの建築界や造園家たちによって始まっていたが、福祉、衛生面の改善等に力をいれていたバッジェは、その一端として、戸外での人々のレジャー、レクリエーションの場所としての庭園や公園整備にかなりの力をいれた。その結果、ルーズベルト公園のみならず、それ以上の面積を持つ公園がモンテビデオ市内に次々と建設された。モンテビデオ市内には三大公園と称されるロド、プラド、バッジェ公園もつくられ、いずれも「オスマンモデル」と称されるフランスの公園緑地技法を用いており、それらの公園には、子供の遊び場から人工的な湖、ミニチュアの城、噴水、銅像などが建立されている³³⁾。

このフランスの巨匠と言われたエドゥアール・アンドレの帰国後、彼の都市計画を引き継いだのが、アンドレの弟子だったカルロス・タイス、そしてタイスの弟子だったカルロス・ラシーンだった。彼らはアンドレのデザイン技法を引き継ぎ、ウルグアイの都市計画発展に大きく寄与したのである。特にカルロス・タイスは1889年よりアルゼンチンで活動を開始しており、1891年から1920年までブエノスアイレス市の公園局長も務め、アルゼンチンの70以上の公園や庭園、樹木が立ち並ぶ大通りなどの公共事業を手掛け、ブエノスアイレスの街をフランスの雰囲気に変えていた³⁴⁾。カルロス・タイスは1905年から1912年にかけて、モンテビデオの都市の美観、新規開発計画も手掛け、その後、ウルグアイ人の女性と結婚した。また、タイスのデザインの特徴として注目すべきは、現地の植物を利用しながら、英仏折衷の造園デザインを用いたことだ。彼がルーズベルト国立公園のあるカラスコ地域の宅地開発を任された時、頭に描いたのが田園都市構想だった。彼はロンドン郊外に田園都市レッチワースをつくったエベネザー・ハワードの影響を受け、町の近くに自然と共生する緑豊かな田園都市を計画したのである³⁵⁾。それは師であったアンドレだけではなく、ブローニュの森やパリの都市緑地をてがけた都市計画家、造園家だったジャン・シャルル・アドルフ・アルファンにも師事し、その影響を受けていたことにも起

因する。そもそもフランスのナポレオン3世、パリの都市改造を任されたオスマン、そしてパリの多くの公園や緑地デザインを手がけたアルファンの3人ともがイギリスの田園風景をこよなく愛しており、特にアルファンのパリの都市公園にはイギリスのデザイン技法を使ったと思われる公園をいくつも見つけることができる。その結果、ルーズベルト国立公園と接するカラスコ地区は自然豊かな高級住宅地となっていた³⁶⁾。

このように当時のモンテビデオの公共庭園や公園緑地のデザインにはフランスの造園家の影響が強く出ていた。アルファンの影響を受け、イギリスの作風を取り入れていた弟子のアンドレはイギリスのリヴァプール市のセフトン公園の懸賞設計にも当選している。アルファンやアンドレは地形と調和のとれた流線型の曲線園路をよく描いていた。こうして当時のモンテビデオの公共庭園や公園は、イギリスの自然風景式庭園の技法とフランスの平面式庭園の両方を織り交ぜた英仏折衷のデザインのもので作られていったのである³⁷⁾。

また、ルーズベルト国立公園が設立された1915年は第二次バッジェ政権末期であり、この公園を国の所管とした理由に、バッジェ大統領の各種事業の国有化が進んだ時期であったことも起因しているのではないだろうか³⁸⁾。バッジェは、特に公共事業の国有化に力をいれており、人々の為の公園、緑地事業の整備も国が主体となって行われ、その結果、初の公園が国の主導で作られたのであろう。

IV 現在の国立公園

ウルグアイの国立公園は1993年の国連リストに登録された数は5カ所で、すべての国立公園がIUCNのカテゴリーVの景観保護地域であった。その後、1997年の国立公園リストで1カ所増えたが、この時もすべての国立公園がカテゴリーVであった³⁹⁾。その後、ウルグアイ政府は2005年に「国家保護区システム」(Protected Areas National System)を法制化し、その中で保護地域を国立公園、天然記念物、景観保護地域、保護サイトの4つのカテゴリーに分類した⁴⁰⁾。また、この法律の中で、国立公園の定義を「人間による開発や占拠、動植物によって大きく改変されずに残った生態系が一つもしくはそれ以上ある地域で、人々のレクリエーション、教育、学術研究の目的のために資することのできる地形学的にもすぐれた生息地、或いは突出した美を有する自然景観地域」としている⁴¹⁾。2022年現在、UNEP-WCMCに登録されている保護地

表 IV-1 1993 年 UN リスト記載の国立公園

	名前	日本語	県	分類	面積 (ha)	設立年
1	F.D. Roosevelt	F.D.ルーズベルト	カネロネス	V	1,500	1915
2	Santa Teresa	サンタ・テレサ	ロチャ	V	3,288	1927
3	San Miguel	サン・ミゲル	ロチャ	V	1,598	1937
4	Arequita	アレキタ	ラバジェハ	V	1,000	1964
5	Anchorena	アンチョレナ	コロニア	V	1,450	1978

(出典：IUCN: 1993 United Nations List of National Parks and Protected Areas, 1994)

表 IV-2 1997 年 UN リスト記載の国立公園

	名前	日本語	県	分類	面積 (ha)	設立年
1	F.D Roosevelt	F.D.ルーズベルト	カネロネス	V	1,500	1915
2	Santa Teresa	サンタ・テレサ	ロチャ	V	3,290	1927
3	Arequita	アレキタ	ラバジェハ	V	1,000	1964
4	Islas del Río Negro	リオ・ネグロ島	ソリアノ	V	1,850	1969
5	Lacustre	ラクストル	ロチャ	V	14,000	1977
6	Anchorena	アンチョレナ	コロニア	V	1,450	1978

(出典：IUCN:1997 United Nations List of Protected Areas, 1998)

表 IV-3 2022 年 UNEP-WCMC 記載の国立公園

	名前	日本語	県	分類	面積 (ha)	設立年
1	Cabo Polonio	カボ・ポロニオ	ロチャ	II	25,820	2009
2	Esteros de Farrapos e Islas del Río Uruguay	エステロス・デ・ファラ ポス・エ・イスラス・デル・リオ・ウルグアイ	リオ・ネグロ	II	168,100	2008
3	Isla de Flores	イスラ・デ・フロレス	フロレス	II	5,749	2017
4	San Miguel	サン・ミゲル	ロチャ	II	1,542	2010

(UNEP-WCMC: Protected Area Profile for Uruguay from the World Database of Protected Areas, 2022, Cited 2022/08/28)

域、22カ所のうち、IUCNの国立公園カテゴリーIIに入っている数は4カ所だけで⁴²⁾、ウルグアイの住宅・国土計画・環境省による国立公園の数と一致しない⁴³⁾。それは、ウルグアイの国立公園は半自然景観や人文景観を有するカテゴリーVの国立公園の数が多いということだろう。

おわりに

南米初の国立公園がブラジルとアルゼンチンの大国に挟まれた小さな国のウルグアイで誕生した理由をまとめてみると以下のとおりである。

1. ウルグアイが独立して、首都モンテビデオに多くの移民が流入してきた。この人口増加によって都市環境が悪化し、その整備が求められた政府は大規模な都市計画を実施した。その一環として多くの庭園や公

園、広場、大通りの緑地整備が行われ、ルーズベルト国立公園はその最初の公園として作られた。しかし、公園当時の名称はルーズベルト国立公園ではなく、カラスコもしくはセントニアル国立公園と呼ばれており、現在の名称に変更されたのは1945年である。

2. 当時の大統領だったバッジェが、国民の福祉政策や民主化に力をいれた。特に公衆衛生事業にも力をいれ、市民の健康、福祉向上のためにスポーツ振興やレジャー・レクリエーション事業にも力を注いだ。その結果、モンテビデオ市内に多くの公園や緑地が整備された。又、バッジェが国有化事業に意欲を示した時期で、出来るだけ国による事業の展開を目指していたために、多くの富裕層による私邸の庭園が出来ていく中、電気、郵便、鉄道事業同様、公園や広場・緑地事業も国営管理を意識し、公共公園の設立を目指したのではないだろうか。

表 IV-4 ウルグアイ環境省記載の国立公園（県別記載）

	名前	日本語	県	設立年・備考
1	F.D. Roosevelt	F. D. ルーズベルト	カネロネス	1915
2	Isla San Gabriel	サン・ガブリエル島	コロニア	1995
3	Arequita	アレキタ	ラバジェハ	1964
4	Lacustre y Area de uso Múltiple Laguna de José Ignacio, Garzón y Rocha	ラクストリン国立公園とラゲーナデ・ホセ・イグナシオ、ガルソン・イ・ロチャ多目的エリア	マルドナド ロチャ	(イグナシオの国家保護区システム登録1977年)(ガルソンの国家保護区システム登録2014年)
5	Monumento Histórico Meseta de Artigas	アルティガス高原の歴史的建造物	パイサンドゥ	Parque Nacionalの記載はないが分類では国立公園2003
6	Bosque Nacional del Río Negro	リオ・ネグロ国立森林公園	リオ・ネグロ ソリアノ	2004
7	Monumento Histórico y Parque Nacional Fortaleza de Santa Teresa	サンタ・テレサ要塞国立公園及び歴史的建造物	ロチャ	1927
8	Monumento Histórico y Parque Nacional Fuerte San Miguel	フエルテ・サンミゲル国立公園と歴史的建造物	ロチャ	1937
9	Parque Nacional y Fauna y Flora El Potrerillo de Santa Teresa	エル・ポトレリョ・デ・サンタ・テレサ国立公園と動植物保護区	ロチャ	1927
10	Parque (Nacional) Grito de Ascencio	クリト・デ・アセンシオ国立公園	ソリアノ	1979
11	Parque Nacional J.A. Lavalleja	ファン・アントニオ・ラバジェハ国立公園	ソリアノ	

(出典：Parks.it-Parks, Reserves, and Other Protected Areas in Uruguay
<http://www.parks.it/world/UY/Eindex.html> cited 2022/05/17)

3. この都市計画や公園緑地の設計をてがけたのがイギリス、スペイン、フランス等からやってきたヨーロッパ人建築家や造園家で、ヨーロッパの都市を模した建築物や公園緑地が次々と整備されていった。特にウルグアイ初の国立公園をてがけたフランス人のカルロス・ラシーンやそれに助言をあたえたカルロス・タイスのフランス人造園家等は彼らの師であったジャン・シャルル・アドルフ・アルファンやエドゥアル・アンドレの影響を受け、英仏折衷の造園デザインを用いた公園緑地を数多く設計した。したがってルーズベルト国立公園も単なる都市公園のデザインではなく、自然豊かな森や湖を含んだ公園が設計された。

それでは、南アメリカでアメリカのイエローストーンのような大自然の面積を持った国立公園が設立されたのはどこの国だったのだろうか。おそらくそれはお隣の国アルゼンチンではないか。ウルグアイで最初の国立公園が設立された時に、アルゼンチンではすでにアメリカのイエローストーン国立公園は紹介されており、南アメリカにおける国立公園の発展はむしろアル

ゼンチンとブラジルをはさむイグアス国立公園に注目すべきである。1934年にこのイグアス国立公園とナウエル・ウアピ(湖)国立公園の2カ所が設立されたが、実はその起源は1903年にさかのぼる。この年にすでにアルゼンチンでは保護区が設立されていたのである。それは有名な地理学者で探検家でもあったフランスコ・モレノが国の南西部に位置する7,500ヘクタールの自分の土地を寄贈し、人々のために国立公園を設立して欲しいという要望を国に書き送った。しかし、それが実際に国立公園として運用されるようになるには数十年がかかったのである⁴⁴⁾。

また、アルゼンチン政府からイグアスの滝の国立公園計画を委託されたのがカルロス・タイスであった。タイスはイグアスの滝の環境と旅行者についての調査を委託され、すでに1902年には全体計画が出来上がっていたという。しかし、国立公園区域や土地取得の問題、他の土地利用との競合等のさまざまながあり、国立公園設立までかなりの時間を要して、アルゼンチンでは1934年11月29日に設立され、ブラジル側のイグ

アス国立公園は1939年10月29日に設立された。こうして、アルゼンチンでは早くからイグアス国立公園プロジェクトは始まっていたが、その実現がウルグアイより遅かったということである⁴⁵⁾。

19世紀から20世紀にかけてのヨーロッパと北南米の造園家の交流を調べてみると、ニューヨークのセントラルパークを設計したフレデリック・ロー・オルムステッド(Frederick Law Olmsted)は「パリ改造計画」が実施されつつあった時にフランスを訪れ、多くのパリの公園緑地をてがけたランファンと交流している。又、弟子のアンドレもアメリカへ渡り、そこでオルムステッドやハーバード大学のアーノルド樹木園の初代園長となった植物学者のチャールズ・スプリング・サージェント(Charles Sprague Sargent)と交流しており、多くの情報交換をしていた⁴⁶⁾。こうしてみると早くからヨーロッパの造園家たちは南米に渡り、ヨーロッパの都市や公共緑地を植民地で再現していたと解釈できる。現在、アルゼンチンのブエノスアイレスやウルグアイのモンテビデオがヨーロッパの佇まいを感じさせる落ち着いた街として、世界の観光客を魅了している理由が、こういった過去の公園緑地をひもといてみるとわかってくる気がする。

引用文献

- 1) ウルグアイの基礎データ / 外務省
<https://www.mofa.go.jp/mofa/area/irigiau/data.html#section1>.
(Cited 2022/05/16)
- 2) 地球の歩き方2020～2021 アルゼンチン チリ パラグアイ ウルグアイ
株式会社ダイヤモンドビッグ社。p.353.
- 3) 日本の裏側の国はどこ？
<https://hugkum.sho.jp/249197> (Cited 2022/05/16)
- 4) Uruguay
<https://www.britania.com/place/Uruguay/Education>(Cited 2022/05/16)
- 5) Ibid.
- 6) 山口恵美子(編)『ウルグアイを知るための60章』
明石書店、2022年、pp.65-66.
- 7) 同上、pp.67-68.
- 8) 増田義郎(編)『ラテン・アメリカ史II南アメリカ』、
東京：山川出版社〈新版世界各国史26〉、2012年、
pp. 183-185.
- 9) (西：criollo) クリオールヨ、クリオージョとは、
スペイン領植民地において、スペイン人を親として
現地で生まれた白人を指す。
<https://www.weblio.jp/content/クリオージョ>
(Cited 2022/09/30)
- 10) カウディーリヨ、カウディージョ(英語表記：
caudillo)、19世紀初め、独立後の旧スペイン領
ラテン・アメリカ諸国に輩出した強大なボスの政
治指導者をさす。
日本大百科全書(ニッポニカ)「カウディーリヨ」
の解説。[https://kotobank.jp/word/カウディー
リヨ-1153339](https://kotobank.jp/word/カウディーリヨ-1153339) (Cited 2022/09/30)
- 11) 山口、前掲書、2022年、pp.76-78.
- 12) 増田、前掲書、2012年、pp.187-189.
- 13) 山口、前掲書、2022年、p.79.
- 14) 増田、前掲書、2012年、pp.181-183.
- 15) 山口、前掲書、2022年、pp.79-83.
- 16) 同上、pp.82-86.
- 17) 同上、pp.86-88.
- 18) “Jose Batlle y Ordóñez Facts for Kids,”
[https://kids.kiddle.co/Jos%C3%A9_Batlle_y_
Ord%C3%B3%C3%B1ez](https://kids.kiddle.co/Jos%C3%A9_Batlle_y_Ord%C3%B3%C3%B1ez)
(Cited 2022/05/16)
- 19) Ibid.
- 20) “The Age of Batlle y Ordóñez (1900-1930),”
Encyclopedia.com
<https://www-encyclopedia.com>
(Cited 2022/05/16)
- 21) Ibid.
- 22) Ibid.
- 23) IUCN, *1993 United Nations List of National
Parks and Protected Areas*, Gland, Switzerland
and Cambridge, UK, IUCN, 1994, pp.xv, 236.
- 24) “Parque Franklin Delano Roosevelt,”
<https://es-academic.com> (Cited 2022/05/16)
- 25) Ibid.
- 26) Forum Uruguay, “Environmental and Social
Context, IDB Invest,”
<https://www.idbinvest.org.pdf> (Cited
2022/08/02)”
- 27) Ibid.
Also refer to <https://turismo-imacanelones-gub.uy>.
- 28) 増田、前掲書、2012年、pp.268-269.
- 29) 同上、p.269.
- 30) 同上、pp.10-11.
- 31) 「パリ改造」とは、ナポレオン3世によるフランスの
第二代帝政時の19世紀、セーヌ県知事のジョルジュ・
オスマンが取り組んだフランス最大の都市整備事業。
日本大百科全書(ニッポニカ)〈パリ改造〉の解説

- <https://kotobank.jp/word/パリ改造>
- 32) Valva Deveikiene, Ona Deveikyte, Steponas Deveikis, “*Green and Blue Infrastructure for Sustainable Development of the City: Case Study of Vilnius City and its Region,*” p.8, 8th FIG Regional Conference 2012, Montevideo, Uruguay, 26-29 November 2012.
- 33) Ibid., p.7. Also Montevideo(Uruguay), <https://montevideo.gub.uy/>
- 34) 山口、前掲書、2022年、p.245.
- 35) 同上、p.246.
- 36) 久松弥生、「パリ大改造と都市公園システム」『地域活性化ニュースレター』Vol.3, 2012年、pp.7-12.
- 37) Valva Deveikiene, Ona Deveikyte, Steponas Deveikis, op. cit., p.8.
- 38) 山口、前掲書、pp.99-101.
- 39) IUCN, *1997 United Nations List of Protected Areas*, Gland Switzerland, Prepared by WCMC and WCPA, IUCN, Gland, Switzerland and Cambridge, UK, 1998, pp. xviii and 289.
- 40) “National System of Protected Natural Areas of Uruguay Law No. 17,234 (Spanish:*Sistema nacional de áreas naturales protegidas de Uruguay*, commonly abbreviated as SNAP) Ley No.17,234”, <https://legislativo.parlamento.gub.uy/temporales/leytemp/464898.htm>. (Cited 2022/09/29)
- 41) Ibid.
- 42) “Explore the World’s Protected Areas,” <https://www.protectedplanet.net/478060>. (Cited 2022/08/28)
- 43) “Parks, Reserves, and Other Protected Areas in Uruguay,” <http://www.parks.it/world/UY/Eindex.html> (Cited 2020/05/17)
- 44) Olaf Kaltmeier, *National Parks from North to South: An Entangled History of Conservation and Colonization in Argentina*, Trier: WVT Wissenschaftlicher Veriag Trier, 2021, pp.6-13.
- 45) Ibid.
- 46) Phyllis Anderson, “The Letters of Edouard André to Charles Sprague Sargent,” <http://arnoldia.arboretum.harvard.edu>. (Cited 2020/10/10)
- 株式会社ダイヤモンドビッグ社 2020年
- 増田義郎(編)『ラテン・アメリカ史II南アメリカ』<新版世界各国史26> 山川出版社 2012年
- 山口恵美子(編)『ウルグアイを知るための60章』明石書店 2022年
- 久松弥生「パリ大改造と都市公園システム」『地域活性化のニュースレター』Vol.3, 2021年
- IUCN, *1993 United Nations List of National Parks and Protected Areas*, Gland, Switzerland and Cambridge, UK : IUCN, 1994.
- IUCN, *1997 United Nations List of Protected Areas*, Gland, Switzerland and Cambridge, UK: IUCN, 1998.
- Kaltmeier, Olaf. *National Parks from North to South: An Entangled History of Conservation and Colonization in Argentina*, Trier:WVT Wissenschaftlicher Veriag Trier, 2021.
- 外務省「ウルグアイ基礎データ-Ministry of Foreign Affairs of Japan」、<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/uruguay/data.html>. (Cited 2022/05/16)
- Anderson, Phyllis, “The Letters of Edouard Andre to Charles Sprague Sargent,” <http://arnoldia.arboretum.harvard.edu>. (Cited 2020/10/10).
- Forum Uruguay, “Environmental and Social Context IDB Invest,” <https://www.idbinvest.org.pdf> (Cited 2022/08/02)
- UNEP-WCMC, “Explore the World’s Protected Areas,” <https://www.protectedplanet.net/478060>. (Cited 2022/08/28)
- Deveikiene, Valva, Deveikyte, Ona, Deveikis, Steponas, “Green and Blue Infrastructure for Sustainable Development of the City: Case Study of Vilnius City and its Region,” 8th FIG Regional conference 2012, Montevideo, Uruguay, 2012. (Cited 2022/10/12)

参考文献

地球の歩き方編集室『地球の歩き方2020～2021』